

競技中の休憩時間について

競技会場である本校実習棟 1 階機械加工実習室、旋盤 1・予備 1・旋盤 5・予備 2、側には窓がありません。また各旋盤の前部には、コロナ対策、切粉飛散対策として透明ビニールで囲いをしています。そして会場内は大変狭く、十分な換気が取れない状態です。

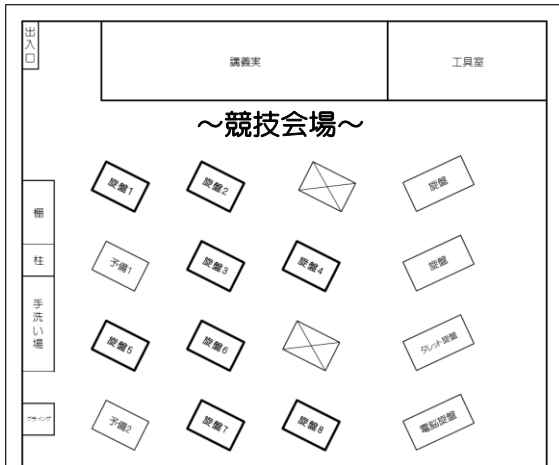
7月10日(日)の天候は晴れ、気温は30℃を超える予報となっています。本部から競技実施にあたり、熱中症対策を取るようとの指示がありました。そこで、今大会では競技中に選手が休憩を取れるようにしたいと考えています。競技の流れを妨げるような強制的なものではなく、選手が必要なタイミングで申告により、休憩を取ることができます。必ず休憩を取る必要はありませんが、熱中症による事故を防ぐ目的としても、ぜひご考慮(休憩を取ることも含めた工程を考える)ください。

休憩の取り方としては、競技開始1時間経過ごと(1時間、2時間、3時間経過後)に1回、5分間、取得可能とします。係がストップウォッチにより時間を計り、5分後に作業開始となります。これにより、最大で15分間の休憩を取ることができます。

なお、この間は作業をすることはできません。休憩の時間はロスタイムとはせず、競技終了時間(流しで計測)から差し引きます。

(例) 競技終了時間(流し) 2時間40分、休憩10分の場合、
2時間40分 — 10分 = 2時間30分が実際の競技終了時間となります。

休憩を取る場所として、『使用する旋盤付近』、『講義室』、『本部付近』が考えられますが、移動をする際に他競技者に支障が出るのではと心配があります。また、係がストップウォッチで計測をする予定ですが、計測のタイミングなど考慮する事項が多々あります。



これまでの大会同様、競技中の水分補給、汗拭きは今回提案の休憩を取らなくても可能です。この場合は休憩とはならないので、競技時間に含むことになります。

上記の内容は決定事項ではなく、一つの案です。今後も安全に配慮した大会となるよう様々な場面を想定しながら、対策を考えます。大会直前にご迷惑をおかけいたしますが、どうぞご理解願います。

取り急ぎ大会運営において重要な検討事項と考え、先生方へお伝えいたします。